

# 早出し里芋の 栽培と肥料の選び方

千葉市経済部農政課

今 関 雅 夫

はじめに

千葉市は戦前から里芋の大産地であるが、近年は都市近郊の畑作地帯の経営的特性を有利に生かした野菜の産地として知られている。

里芋はインドの原産で乾燥をきらうため、本市では、市街地東方の(泉, 誉田, 土気地区)火山灰土地帯に栽培されている。この地域一帯は畑作中心農業で、一戸当りの耕地面積が広く、里芋を主力に人参、生姜(しょうが)等が栽培され、比較的省力経営が確立している地帯である。

第1表 10a 当り収益性

項 目	金 額	備 考
粗 収 入	166,400円	1,280kg×130円
生 産 費		
種 苗 費	27,000	6俵×4,500円
肥 料 費	9,970	C D U化成その他
防 除 費	4,820	ネマホルン及びウスブルン他
諸材料費	9,660	トンネル及びマルチ他
選果費	27,200	320箱×85円 出荷資材費及び運賃含む
手 数 料	17,472	
計	96,122	
所得		
種苗費含む	70,278	
種苗費含まず	97,278	農家の9割は、種芋は自家採取

経営および栽培上の特色

里芋は貯蔵しやすく早生種があるため、一年中出荷されているが、価格は入荷量の少ない6~8月が最も高くなっている。そこで本市では7~8月出荷を目標に、栽培体系を整え推進している。

栽培的には第一に粗放栽培に  
適し、病害虫も少なく、労力も  
撰果場等を利用することによっ  
て、他の野菜よりかなり節約さ  
れ規模拡大が図れる。第二に、  
生産費のうち種芋代のウェイト  
が大きい、これは自家採取す  
ることによって解決され、合理  
的に経費を節減できる。第三に

里芋は乾燥に弱く地下水の高い土壌を好むが、トンネルマルチ栽培を実施することで、水分の蒸散と肥料の流亡を防ぎ、収量と品質の向上が図られる。

栽培の概要

- (1) 作型(図1参照)
- (2) 品種と催芽方法

品種は早生で形状が丸型であり、分球数が多い子、孫の着生数の多い「親貴」を用いている。

種芋は10a 当り 240 kgで、早期収量の増大から50g前後の大型のものを使用し、床に入れる前、アグレプト水和剤およびウスブルンの800倍液で1時間ほど消毒する。

催芽は早期出荷の目的から、各地区に催芽床を設置し、3月10日前後より大きい芋から順次伏せ込み(10a 当り23.1m<sup>2</sup>のベットが必要)、発芽温度を25~30°Cに操作し、一斉に発芽させる。

発芽後、徒長を防止するため温度を20°Cに下げ、定植3日前から馴化を始める。なお催芽期間に覆土が乾燥した場合は、適時灌水(3.3m<sup>2</sup> 当り20ℓ)し、生育の均一化を図る。

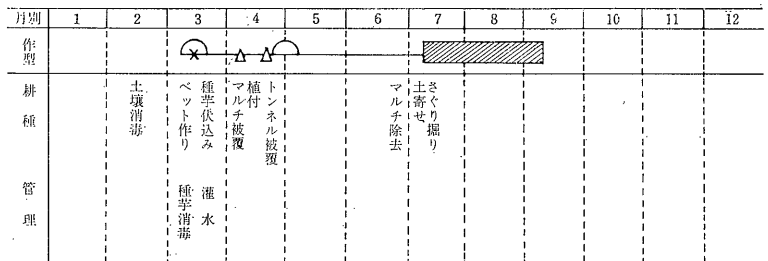
(3) 定植と管理について

里芋は水分の過少により生育が異なるので、雨天後透明マルチを敷き、サンエーホーラーによって10cmの定植穴を設ける。

栽培距離はうね幅120cm、株間30cmの複条植えで、10a 当り5,000株の密植多収栽培である。植付けの深さは浅すぎると早害を受け、深すぎると芋が長形になるので、10cm ぐらいを基準にし、植え傷みを防ぐため(根を切ると、その根は枯死し、新根が出るのに時間がかかる。)、本葉1.5枚までに天気の良い日に定植を行う。

その後水分の蒸散を防ぎ、活着と生育を促進させるためトンネルをし、両サイドに10cmの通気腔

第1図 栽培暦



✕-✕ 種芋伏込み △-△ 定植 △ トンネル ■ 収穫

第2表 立毛共進会審査結果 (1坪当り)

圃場名	品種	伏せ込み期	定植期	うね巾	1坪当り株数	施肥量		形状	規格別取量										合計	順位										
						肥料名	成分		LL	L	M	小計	S	SS	SSS	小計	外													
A	親責	3月19日	4月17日	76.5m	15株	堆肥	1,000kg	上	g	950	g	1,070	g	1,280	g	3,300	g	400	g	180	g	300	g	880	g	250	g	4,430	1	
						C D U	100																							N18.7
						苦土石灰	90																							P18.9
						鶏フン	110																							K16.7
B	親責	3月18日	4月12日	72	13	F54	100	下	g	150	g	1,100	g	700	g	1,950	g	650	g	350	g	200	g	1,200	g	180	g	3,330	3	
						苦土石灰	90																							P23.4
						鶏フン	400																							K11.6
						C D U	100																							N22.2
C	親責	3月18日	4月12日	78.5	14	MMB磷加安	60	中	g	600	g	1,100	g	150	g	2,650	g	400	g	600	g	400	g	1,400	g	350	g	4,400	2	
						苦土石灰	120																							K22.2
						C D U	100																							N22.2
						MMB磷加安	60																							P24.6

を設ける。

(4) 防草剤および病害虫防除

除草, 植付前, トレファノサイド乳剤250cc

アブラムシ } 収穫前 サリチオン乳剤1000倍  
ハスモンヨトウ } サイアノックス乳剤1000倍

汚斑病 収穫前 エムダイファー400~600倍

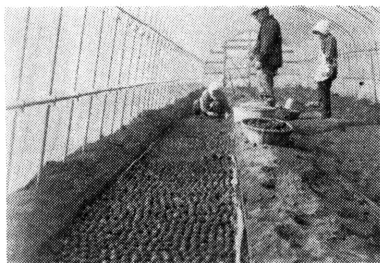
出荷と組織について

7月上旬に, さぐり掘りを始め, 出荷は中旬から下旬までは2K箱, それ以降は4Kの市のカラーダンボール(グリーン)で, 共計, 共撰体制をとっている。掘り取った芋は子芋と孫芋を分け, 毛付きのまま撰果場に搬入され, 検査員により格付均一化され撰別機にかけられる。

CDU化成使用の試験結果について

施肥の省力化を図るべく, 有機質と同等の肥効を示すCDU (15.15.15) 化成を使用した結果,

種芋の伏せ込み



肥大, 形状, 重量とも, その肥効が著しく良好だったので, 以下その成績について述べてみよう。

試験区はA, B, Cの3区に分け, AはCDU単独区, Bは慣行区, CはCDU+慣行区である。

また里芋は早期芋の肥大による出荷で, 価格を高めるため, 比較も規格別にLL~M級とS~SSS級に分けて実施してみた。

まず規格別に比較してみると, LL~M級の重量は明らかにA区が多く, 次いでC区で全体的にCDUを施用した区は1kgほど重量は多かった。なおS~SSS級の試験区は, 出荷期による価格

の点で不安があるので比較は望めないが, 合計重量では, やはり明らかにCDUを施用したA, C区が成績がよいようである。

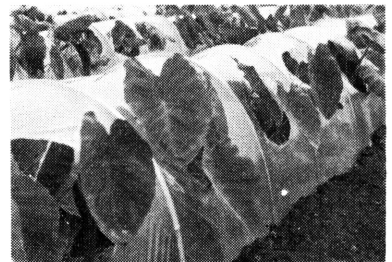
形状はA区が一番丸味を帯び, 次いでC区, B区で, 総合的に判断してみてもCDUを施用した区は取量, 品質ともにその効果は著しかった。

緩効性肥料CDUの効果

里芋は比較的肥料を多く要するが, 肥料の加減により生育と形状が著しく阻害される。

中でも有機質の多少とマルチによる追肥の困難性は, 里芋の品質および芋の肥大を抑制する一番の問題である。

しかし, 緩効性肥料CDUを利用すると, その問題は解決されて, 省力化と早期出荷に多大な成果が取められる。トンネルマルチ栽培により生育促進



CDUは全量元肥で施用し, 定植から子芋着生まで三要素が平均して吸収さ

れ, 芋の肥大期にもなお肥効が持続し, 肉質形状とも良好である。そのため, 本年の施肥例は第3表に示す通り, 全量元肥のCDUを主体に栽培が図られた。

第3表 施肥例 (10a当り)

例 1			例 2		
施肥名	施肥量	成分	施肥名	施肥量	成分
堆肥	1,000kg	N 26.0	堆肥	1,000kg	N 26.25
C D U	100		C D U	120	
園芸化成又は 磷硝加安	40	P 23.5	苦土石灰	100	P 26.35
苦土石灰	100	K 26.0	鶏フン	130	K 25.60